

案件概要書

2020 年 2 月 25 日

1. 基本情報

- (1) 国名：ザンビア共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ルサカ州ルアングワ郡（人口：約 220 万人）
- (3) 案件名：ルアングワ橋建設計画（The Project for Construction of Luangwa Bridge）
- (4) 計画の要約：本計画は、首都ルサカの東方 230km に位置し、マラウイ共和国国境へと繋がるナカラ回廊上のルアングワ橋の整備をすることにより、当該及びナカラ回廊の物流円滑化に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ザンビアは、鉱物資源が豊富であり、東南部アフリカ市場共同体（COMESA）本部が置かれ、アンゴラやルワンダからの元難民の社会への統合に取り組むなど、南部アフリカ地域の平和と安定及び経済発展に貢献しており、同国への支援は、同国及び地域の安定において重要。

本計画は、TICADVI で示された 3 重点地域の 1 つであるナカラ回廊のインフラ整備に資するものと位置付けられており、南部アフリカ地域の物流網の強化に資するものとして意義が大きい。また、2018 年 12 月のルング大統領訪日時に安倍総理は「質の高いインフラ整備を通じた経済の多角化への支援」を継続していくことを表明している。本計画は、TICAD 7 の機会に我が国が発表した 3 つの柱の 1 つである経済の「連結性強化に向けた質の高いインフラ投資」に資するものであるのに加え、我が国が戦略的に重視するインド洋にアフリカ南東部の内陸国からの出口を作る点で地域の連結性強化に資するものであることから、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）構想」における「経済的繁栄の追求」に資するものである。

- (2) 当該国における運輸セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

内陸国のザンビアでは、陸上交通による物流インフラ整備の遅れが、流通コスト高を招き、産業の成長を妨げている。当該国の回廊別取扱貨物の 40.2%（2016 年、以下同様）は南北回廊（南アフリカ共和国ダーバン港とザンビア北側のコンゴ民主共和国を結ぶ国際回廊）を経由しているが、ダーバン港から首都ルサカまでの距離は 2,381km と長距離におよぶ。一方、当該国東部に位置するナカラ回廊（モザンビーク共和国ナカラ港からマラウイ共和国、ザンビアに至る国際回廊）は、ナカラ港からルサカまでの距離が 1,810km と最短の主要経路であるが、取扱貨物は全体の 4.5%にとどまる。ナカラ回廊の取扱貨物量の割合が少ない主な要因は、インフラ整備の遅れである。ルサカからマラウイ国境までの道路区間は整備されており、本計画が対象とするルアングワ橋は、同道路区間のボトルネックとなっている。同橋はルサカから東部州、マラウイに向かう唯一のルート上に位置するが、1968 年に建設された斜張橋は老朽化が著しく、二車以上の同時通行や 55 トン以上の車両の通行を規

制している。将来的にはナカラ港の整備等によりナカラ回廊の利用が増え、ルアングワ橋通行のために長時間滞留が発生すると想定されており、同橋の架け替えはナカラ回廊開発を促進する上での喫緊の課題となっている。

当国政府は、「第7次国家開発計画（2017年～2021年）」において、同橋の架け替えを含む、主要道路や橋の整備を優先事業として位置付けており、本計画は、域内物流円滑化ならびに国家開発計画の実現に資する。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容：橋梁（全長約400～500m、片側1車線）及びアクセス道路（全長約1.0～2.0km、片側1車線）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、施工監理等

② 期待される開発効果：今後悪化が予測されるルアングワ橋での通行車両の滞留時間を短縮し、回廊の利用促進に貢献し、ひいてはナカラ回廊開発を通じたザンビア共和国及び周辺国の物流の円滑化に伴う経済成長・産業活性化への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：道路開発庁（Road Development Agency: RDA）

④ 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて確認する。

⑤ 運営／維持管理体制：運営・維持管理は実施機関 RDA が担い、運営・維持管理予算は公共事業・調達省（Ministry of Works and Supply）により配分される。必要な維持管理予算が確保されるよう、実施中の技術協力プロジェクト「橋梁維持管理能力強化プロジェクト フェーズ 2」（2019～2023 年）を通じ、同省に働きかけを行っている。

(2) その他特記事項

① 環境社会配慮カテゴリー分類：B

② ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

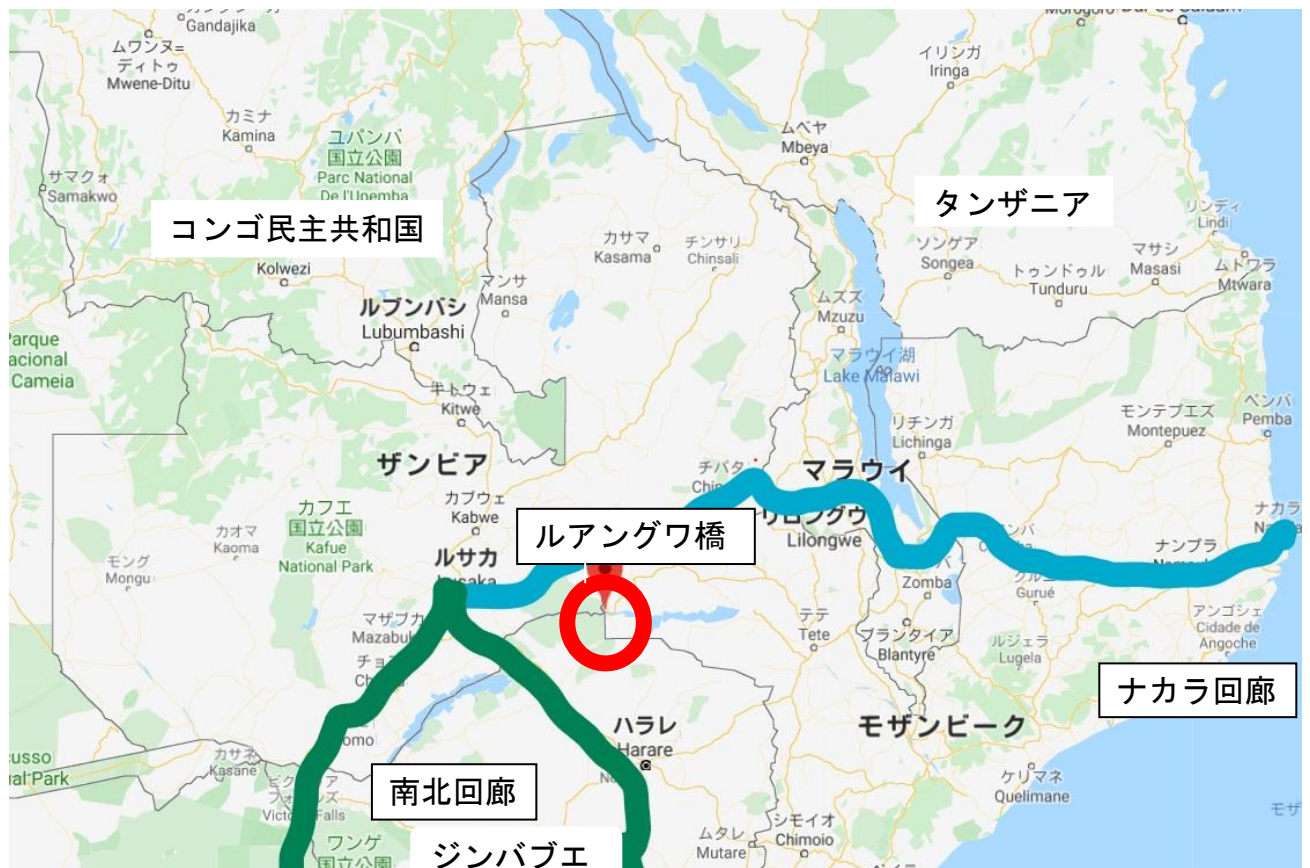
③ 他の援助機関の対応：欧州連合（EU）、欧州投資銀行（EIB）及びアフリカ開発銀行（AfDB）の支援で、ルアングワ橋からマラウイ国境のムワミまでの道路改良が実施済み。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ボリビア多民族国向け無償資金協力「日本・ボリビア友好橋改修計画」等の橋梁案件の事後評価では、橋梁の長寿命化のため、問題が軽微な段階で対処する維持管理体制の構築が重要であると指摘されている。当国では、実施中の技術協力プロジェクト「橋梁維持管理能力強化プロジェクト フェーズ 2」（2019～2023 年）により、ルアングワ橋等の大型橋梁を含む橋梁の維持管理・点検のマニュアル整備や維持管理に関する RDA 職員の能力強化を図っており、事業完成後の維持管理に資することが期待される。

以 上

〔別添資料〕 ルアングワ橋建設計画 地図



既存橋梁

(水色実線全長 302m)

※新橋の架橋位置については、協力準備調査で確認する。

出典：Google Map

[別添資料] 写真



写真 1. 現在のルアングワ橋の交通制限



写真 2. 現在のルアングワ橋を渡るために待つ重量車両の列